

夢と志を育む小鹿野教育
第3次小鹿野町学校教育ビジョン



令和6年4月
小鹿野町教育委員会

目 次

【小鹿野町学校教育ビジョン策定の趣旨】	1
I 小鹿野町学校教育ビジョンの基本的な考え方	1
1 これからの子供に求められる力	1
2 小鹿野町の子供の現状と課題	2
(1) 「全国学力・学習状況調査」、 「埼玉県学力・学習状況調査」の結果から	
(2) 「新体力テスト」の結果から	
(3) 子供たちを取り巻く環境の変化	
II 小鹿野町の学校教育が目指すもの	4
1 基本目標	4
2 目指す子供像	4
3 目指す学校像	4
4 基本方針	4
III 重点的な取組	5
1 確かな学力の育成	5
(1) 連続性・発展性のある教育の推進	
(2) 規律と活力ある学校づくり	
(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成	
2 豊かな心の育成	6
(1) 心の教育の推進	
(2) 社会に貢献する態度の育成	
(3) 食育の推進	
(4) 体力向上と健康の保持増進	
3 夢に向かう活力の育成	7
(1) グローバル人材の育成を支える基盤整備	
(2) 夢と志を育む教育の推進	
(3) 郷土小鹿野に根ざした教育の推進	
4 小鹿野ならではの教育の推進	9
(1) 家庭の教育力の向上	
(2) 地域の教育力の活用	
(3) 学校教育充実に向けた行政支援	
5 質の高い教育を行う環境の整備・充実	10
(1) 幼児教育の充実	
(2) 学校の未来像	
(3) 施設・設備の充実	
【資料編】	
I 用語の説明	12
II 教育ビジョンを踏まえた具体的な取組について(解説)	12
III 教育に関する各種データ	15

【小鹿野町学校教育ビジョン策定の趣旨】

現代において、少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展、子供の貧困、格差の固定化と再生産、社会のつながりの希薄化、国際情勢の不安定などが、継続的な社会の課題として指摘されている。さらに、超スマート社会の実現に向けたデジタル技術の発展など、社会の変化が加速度を増し、社会課題は多様化・複雑化して、将来の予測が困難な時代を迎えている。このような時代を生きる子供たちには、どのような未来をつくっていくのか、どのようにして社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、持続可能な社会の創り手となる力を身に付け、地域に根ざしたウェルビーイングを高めていくことが重要である。

小鹿野町では、令和元年度から5年度までを見通し、「かがやく未来へ おがの人づくり」を基本目標とした学校教育ビジョンを策定し、地域に根ざし、地域を拓き、地域から未来を担う人材の育成に向けた取組を積極的に推進してきた。

子供たち一人一人の資質・能力を向上させ、確かな自己実現を果たすことができるよう、意図的・計画的に育成していくことは、子供たちの生涯を幸せなものにするともに、町を興し、豊かな社会をつくることにつながる。まさに、「町づくりは人づくり」に直結するものである。

このような考え方に立ち、これまでの学校教育ビジョンを継承し、的確な現状把握に基づき、将来を見通した育成指針として第3次小鹿野町学校教育ビジョンを策定する。

※「超スマート社会」、「ウェルビーイング」

→12ページ【資料編】Iの「用語の説明」参照

I 小鹿野町学校教育ビジョンの基本的な考え方

I 1 これからの子供に求められる力

社会背景や情勢が複雑に関連し合い、変化が急激で将来を見通すことが難しい時代において、誰一人取り残すことのない、多様性と包摂性のある持続可能な社会を維持・発展させていく必要がある。一人一人の子供たちには、持続可能な社会の創り手として、「自分のよさや可能性を認識する力」、「多様な人々を価値のある存在として尊重できる力」、「様々な社会的変化や課題を乗り越え、自ら未来を切り拓くことのできる力」が求められ、さらに、「仲間と協働して社会の向上に資する力と態度」が必要となる。SDGsに示される多くの取組を世界中が協力して推進し、将来にわたって持続可能な社会を構成していくためにも、不可欠な資質である。

現実的に人口減少、少子高齢化が急速に進む小鹿野町でも、このような力の育成は喫緊の課題である。郷土小鹿野への愛着と誇りを抱き、確かな人間力を身に付けさせることが重要である。そのために、小鹿野町の未来を担う子どもたちに、「確かな学力」、「人のためにという態度」、「夢（将来展望）と自信（自己肯定感）」を着実に育んでいきたい。

2 小鹿野町の子供の現状と課題

(1)「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」の結果から

(17ページ～19ページ参照)

小学校4年生から中学校3年生までのすべての児童生徒を対象として実施している「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査結果」によると、小学校4年算数、小学校5年算数、中学校2年国語は、県平均とほぼ同程度である。しかし、小学校4年・5年の国語、小学校6年国語・算数、中学校1年国語・数学等は県平均を下回っている。学力の伸びは、小学校5年と6年の国語・算数、中学校1年の数学、中学校3年の国語で県の伸びを上回っている。

また、小学校6年生と中学校3年生を対象として実施している「令和5年度全国学力・学習状況調査結果」を県平均と比較すると、小学校では前年度と比較して県平均との差は縮まったが依然として下回っており、中学校では国語・数学・英語3教科とも下回っている状況である。児童生徒の学力向上は、依然として本町の大きな課題である。

さらに、令和5年度埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、「学級での生活が楽しい」と回答した児童生徒は約94%であり、本町の児童生徒は学校生活を楽しくしていると見える。また、「自分には良いところがある」、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、県平均を上回っている。一方、「学校が休みの日の1日当たりの勉強時間」は、県平均と比べて少なく、1時間に満たない児童生徒の割合が約4割であり、学習習慣に課題がある。

児童生徒が将来の夢を描き、より具体的な憧れを抱き、その実現に向けて自己肯定感を高めながら、主体的に学ぶ態度を身に付けられるよう、学校、家庭、地域が連携して取り組むことが求められている。

(2)「新体力テスト」の結果から (20ページ参照)

令和4年度「新体力テスト」(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走<中学校>、20mシャトルラン<小学校>、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8種目)の本町の平均値は、小学校男子で40%、小学校女子で50%、中学校男子で29%、中学校女子で38%の項目が県平均値を上回り、県平均値を下回った項目は、小学校男女で3%(3項目)、中学校男女で10%(5項目)であった。この結果は、埼玉県の他の市町村と比較してもトップクラスにあたる。

また、学年別男女別に県平均と比較した結果、「ボール投げ」と「20mシャトルラン」がともに67%、「上体起こし」が61%県平均を上回っている。

学年別では、小学校3年と6年の女子が8項目中6項目、小学校4年女子と6年男子が8項目中5項目それぞれ県平均を上回っている。

課題としては、小中学校の「50m走」と「立ち幅とび」、中学校の「持久走」があげられる。

また、令和元年度からの経年変化をみると、小学校においては、「ボール投げ」と「20mシャトルラン」、中学校においては、「上体起こし」で県平均を上回っている。小中学校の「50m走」と中学校の「持久走」においては、継続した課題となっ

ている。

学校、家庭、地域が連携して、健康教育及び食育の充実を図りながら、新体力テストの分析、結果の活用による体力と運動技能の向上に、児童生徒が楽しいと感じ意欲的に活動する体育・保健体育の授業実践をはじめ、全教育活動を通じて計画的・継続的に取り組んでいく。

※項目：1種目について学年別男女別にカウントしており、小学校6学年男女で12項目、中学校男女で6項目の計18項目となる。全体では、144項目(8種目×18項目)となる。

(3)子供たちを取り巻く環境の変化(19ページ参照)

我が国においては、少子高齢化・核家族化の進行、共働き家庭やひとり親家庭の増加など家庭を取り巻く環境が変化する中、子供たちが兄弟姉妹や友人同士で切磋琢磨したり、祖父母等と触れ合ったりする機会が減少している。また、地域のつながりの希薄化や地域コミュニティ機能の低下が指摘され、新型コロナウイルス感染症の感染対策による体験活動等の制限もあり、子供たちの成長の糧となる様々な体験や経験が不足していると言われている。

全国的に少子化の進行は極めて深刻である。また、地理的な面からも近所で遊べる子供が減少し、一人遊びや兄弟姉妹だけでの遊びをせざるを得ない状況があり、その結果、スマートフォンやゲームなどに長時間を費やす子供が少なくない。こうした日常生活に起因する生活体験や自然体験の減少は、結果的に子供たちの心身の健やかな成長の妨げになっている。

しかし、本町では令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果においては、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合が、国や県の平均を上回っており、地域の児童生徒育成関連団体や町の様々な施策の取組の成果が要因であると考えられる。

学校、家庭、地域が連携・協働して、地域の力を結集して子供たちの育成に努め、地域の良さや協働の喜びを感得させるとともに、多様な見方・考え方や価値観にふれる体験を積み重ね、広い視野をもちながら、未来に向けて「夢と志」を育てていくことが必要である。

II 小鹿野町の学校教育が目指すもの

I 基本目標

かがやく未来へ おがの人づくり

2 目指す子供像

郷土小鹿野に誇りを抱き^{いだ}
確かな「人間力」を身に付けた子供

<人間力とは>

人間力に関する確定された定義はないが、ここでは「地域社会に積極的に参加し、周囲と協調しながら社会的貢献を果たすとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力ととらえる」こととする。

<総合的な力として身に付けさせたい資質能力>

- ①確かな学力 ②社会性 ③夢に向かう活力 ④心身の健康

3 目指す学校像

未来に向かう夢と志を育む学校
すべての子供の可能性を引き出す質の高い教育を提供する学校
地域に信頼される安全で安心な学校

4 基本方針

- ① 確かな学力の育成
- ② 豊かな心の育成
- ③ 夢に向かう活力の育成
- ④ 小鹿野ならではの教育の推進
- ⑤ 質の高い教育を行う環境の整備・充実

Ⅲ 重点的な取組

Ⅰ 確かな学力の育成

確かな学力の育成は、本町が目指す確かな人間力育成の根幹となる課題である。「規律と活力のある学校づくり」を推進する中で、保育所、こども園・小・中の教育の連続性と発展性を意識しながら子供に夢や志を育み、知識や技能の習得はもとより、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を含む「確かな学力」を育成する。

(1) 連続性・発展性のある教育の推進

保育所・こども園と小学校との連携を深め、学びの基盤づくりとしての小学校教育の充実を図る。さらに、義務教育9年間を見通した連続性・発展性のある教育を推進し、学力の向上を図る。

- 保育所・こども園・小学校との連携による生活習慣・学習習慣の定着
- 「学びの基盤づくり」としての小学校教育の充実
- 小・中学校の連携と学習規律・学習意欲の向上
- 小学校高学年における教科担任制の推進
- 小規模校の良さを生かした教育活動の充実
- キャリア教育を通じた将来展望と学習の意義についての理解の深化

(2) 規律と活力ある学校づくり

規律と活力ある学校づくりに向けて、教師自身が学び、自らの資質を向上させる姿勢が不可欠である。学びの基盤となる学級づくり、日々の授業改善、ICT活用能力の向上を図る町独自の研修会を実施するとともに、校内研修への積極的な支援を行う。

ア キャリア段階に応じた教員研修の実施

各学校においては、若手教員が急速に増加し、教職員の資質の向上が大きな課題となっている。町の学校教育指導員等を活用して、様々な機会を捉えた研修機会を設定し、キャリア段階に応じた教員の育成を推進する。

- 町内若手教員を対象とした「学級づくり・授業力向上研修」の実施
- 町内授業改善研修会の実施
- 中堅教員の学校運営参画に向けた資質向上研修の実施
- 学校教育指導員等を活用した授業研究・校内研修への支援の充実

イ ICT教育研修の推進

町内ICT教育推進研修会を中心に、子供たちの情報モラルを含む情報活用能力を育成するために不可欠な教師のICT活用能力とその指導力の向上を図る。

- ICT活用技能の向上
- タブレット端末、デジタル教科書、デジタル教材、学習支援ソフト等を活用した授業の推進
- 学習履歴(学習進度、授業評価)などの学習データの積極的な利活用
- ICT活用授業実践例・情報モラル指導例等のデータの共有

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童・生徒に確かな学力を育むためには、主体的な学習態度を育成することが不可欠である。各学校における授業の中に学び合いなど主体的で対話的な学習の場を取り入れるとともに、自主的な家庭学習へと発展させ、児童・生徒の主体的な学びを支援する。

ア 「小鹿野ベース」に基づく授業の充実

子供たちに主体的な学習態度を身に付けることを目指し、学力向上プロジェクトを推進する。具体的な方策として、日々の授業を充実させるため、町内全ての学校(学級)で、共通な視点、スタイルに基づく授業改善(小鹿野ベースの授業)に取り組む。

- 学力向上プロジェクトの推進
- 町内全小・中学校、全学級共通の授業スタイル(小鹿野ベースの授業)をもとに授業の質を高める
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践の充実
- 個別最適な学びと協働的な学びの推進

イ 自主的な家庭学習への支援

学校での学習状況や学力検査結果を家庭と共有するとともに、小鹿野町独自の「自学ノート」の活用やタブレット端末による家庭学習支援などにより、家庭と連携して主体的な学習態度を育成する。

- 自主的な家庭学習の習慣化への支援(「おがの自学ノート」の配布等)
- 「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」結果の分析及び家庭との共有
- 標準学力検査の実施と結果の分析及び家庭との共有
- オンラインによる自主学習の推進

2 豊かな心の育成

小鹿野町の未来を担う子供たちに、基本的な生活習慣や規範意識及び健康でたくましい心と体を育成する。そのために必要な環境を整備し、豊かな心のふれあいを深めるとともに、様々な体育的活動に取り組む機会を保障する。

(1) 心の教育の推進

子供たちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力などを育むため、学校教育全体を通して道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実に努め、心の教育の一層の充実に努める。また、地域や学校間の連携を図った体験活動・交流活動などを推進し、豊かな人間性や社会性、多様性への理解を育む。

- 「人は自分のためだけでなく、社会のために存在している」という意識の醸成
- インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進
- 特別の教科「道徳」の授業の充実
- 生命を大切にする心や思いやりの心を育む人権教育の充実(ほっとハートキャンペーン)
- 「認め・褒め・伸ばす教育」、「自己肯定感を高める指導」の推進

- 多様な体験活動、学校間交流活動等の推進
- いじめ防止対策推進法に基づくいじめ防止対策の推進
- 不登校児童生徒に対する効果的な支援、教育相談体制の充実

(2) 社会に貢献する態度の育成

日常生活を通じた望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決するとともに、社会に貢献しようとする態度を育成する。

- 学校生活の基盤となる「学級づくり」、「人間関係づくり」の充実
(年2回実施のHyper-QUテストの効果的な活用)
- 児童生徒の主体性を生かした学校行事等の創造的活動の推進
- 異学年との交流や児童会・生徒会活動の活性化
- 中学生社会体験チャレンジ事業や地域と連携した福祉体験活動の充実
- 地域活動への参加の促進(歌舞伎等郷土芸能活動、地域清掃活動等ボランティア活動)

(3) 食育の推進

食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、自らの健康管理をすることができる力を育むため、学校給食センター、栄養教諭、給食主任、学級担任、養護教諭等の密接な連携のもとに食育を推進する。

- 地域の食材や郷土食を通じた食文化への理解の推進
- 望ましい食習慣を身に付けるための家庭や地域との連携の推進
- 食物アレルギーの実態把握と事故防止対策の充実
- 栄養教諭の効果的な活用

(4) 体力向上と健康の保持増進

体力はあらゆる活動の基本であり、身体面のほか精神面の充実にも大きく関わる。全教育活動を通じて計画的・継続的に指導するとともに、体育的な環境の整備・充実に努める。また、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力を育み、体力向上の取組を推進する。

- 各学校の体育的活動及び体育、保健体育の授業の充実
- 新体カテストの分析、結果の活用による体力と運動技能の向上
- 地域と連携した中学校部活動の充実

3 夢に向かう活力の育成

将来夢を実現し、広い視野で物事を考え、個性を発揮しながら、グローバル社会の一員としてたくましく生きていく力を育成する。そのために、働くことの大切さや「人のために」役立つことの喜びを実感する体験活動や、自分を見つめ、自分の適性について理解を深める学習の充実に努める。

(1) グローバル人材の育成を支える基盤整備

グローバル人材育成推進会議は、グローバル人材の要素として、「語学力・コミュニケーション能力」、「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」、「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」の3点を挙げている。

あらゆる教育活動の中に適切に方策を位置付け、子供たちが3要素を確実に身に付けるための教育活動を積極的に推進する。

ア 語学力・コミュニケーション能力の育成

正しい日本語の習得を図るとともに、英会話のできる中学生の育成を目指して、発達段階に応じた学習の充実を図る。

- 正しく美しい日本語の習得と自分自身の考えを正確に伝え合う言語能力の育成
- 小学校の英語活動及び英語科授業の充実
- 小・中学生の国際交流及び中学生の海外派遣の実施
- こども園、小学校低学年での英語触れ合い体験の推進（ALTの活用）
- 英検・漢検の取得率向上を目指した小鹿野未来塾の充実（中学校卒業時3級4割）

イ 情報活用能力の育成

いつでも、どこでも、ほしい情報を簡単に手に入れることができる時代だからこそ、情報を選択し活用する力を育てる必要がある。情報社会に参画する際のモラルや技術を身に付け、情報手段を主体的、積極的に活用する資質や能力を育成する。

- タブレット端末や各学校のPC室・図書室等を活用した調べ学習の充実
- 「図書館を使った調べる学習」の推進（町立図書館との連携）
- ICT教材等の積極的な活用と情報活用能力の育成
- 情報モラル教育の充実

(2) 夢と志を育む教育の推進

夢に向かう活力を育成するために、義務教育9年間を見通した体系的・系統的な進路指導・キャリア教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となった教育の一層の充実を図る。

- 「おがの子供の夢育成プロジェクト」の推進(二分の一成人式、卒業(式)に思う、立志式等)
- 言語的感覚を磨き、人生の指針となる「おがのことだま百選」の積極的な活用
- 志ファイル～キャリアパスポート～の活用による夢や志の育成
- 夢や志を育むハートコンタクトプログラムの活用
- 地域と連携した職場見学、職場体験等の活動の充実
- 9年間を見通した体系的・系統的な進路指導・キャリア教育計画の充実

(3) 郷土小鹿野に根ざした教育の推進

伝統文化や地域の人々との関わりを通して、地域の良さを知り、町の持続的な発展に積極的に関わろうとする態度と、郷土小鹿野に対する愛着と誇りを育む。

- 各小中学校等における地域学習や伝統文化活動の継承（小鹿野ふるさと学習）
- 多様な体験活動を通して地域の良さを学ぶ「総合的な学習の時間」の実践

4 小鹿野ならではの教育の推進

学校は開かれた教育課程のもと、地域や社会、そして、世界に目を向け、地域や社会との接点をもちながら、地域の人々などとのつながりの中で、子供たちが学んでいけるよう教育活動を展開しなければならない。「学校教育を通じてよりよい社会をつくる」という目標のもとに、子供たちが未来の創り手となるために求められている資質や能力を育む教育活動を充実する。

(1) 家庭の教育力の向上

学校における学力向上対策等を効果的に進めるためには、家庭との連携が不可欠である。PTAと連携を図りながら、「親子共学」をキーワードに、生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を目指した取組を積極的に推進する。

- 「おがの自学ノート」の配布による家庭学習の習慣化への支援
- 「親子共学」のツールとしての「おがのことだま百選」の積極的な活用
- 保護者・家族等の小鹿野未来塾への積極的な参加
- PTAと連携したファミリー5ヶ条(「おがの家庭教育宣言」)の取組強化

(2) 地域の教育力の活用

「教育スクラム日本一の町づくり」を目指して、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の充実を図るとともに、学校応援団等との連携を強化し、地域の人材や県立小鹿野高等学校等の協力も得ながら、小・中学生や高校生、町民への学習機会の拡充を図り、町全体に学びの気運を醸成する。

ア 社会に開かれた教育課程の実現

学校・家庭・地域が子供たちを育成する目標を共有し、地域の人的・物的資源、関係組織等を活用しながら、社会と協働する教育活動を積極的に展開する。

- コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の充実
- 地域学校協働活動の推進
- 学校応援団組織の充実と学校の教育活動への支援
- スクールガードや安全ボランティア等による子供たちの見守り活動の充実
- 小鹿野高等学校や地域の各種関係団体との連携

イ 小鹿野未来塾の推進

「親子共学」、「地域の人材活用」、「県立小鹿野高等学校との連携」をキーワードとして、小・中学生や高校生、町民を対象とした学習機会の拡充を図り、町全体に学びの気運を醸成する。

- 小鹿野未来塾漢字検定・英語検定チャレンジスクール講座の実施
- 中学生未来塾講座の実施による国語科、数学科、英語科の補充学習の充実
- 小鹿野高校との連携による小学生科学不思議講座の実施
- 漢字検定・英語検定の検定料の助成

(3) 学校教育充実に向けた行政支援

学習指導員、生活指導補助員、学校図書館支援員、ICT支援員等の一層の活用を図り、教員の負担を軽減して、子供と向き合う時間を確保するなど指導体制の充実を図る。また、SSW、学校教育指導員、フレンドリー相談員の連携による不登校児童生徒への支援の充実を図る。

- 学習指導員、生活指導補助員、教員業務支援員(スクールサポートスタッフ)の配置
- 統合型校務支援システムの活用
- 学校図書館支援員の配置による図書室の整備と利用の促進、「調べる学習」の推進
- ICT支援員、ALT等の拡充による授業改善の推進
- おがの輝きスクール(教育支援センター)における不登校児童生徒への支援

5 質の高い教育を行う環境の整備・充実

本町では、平成27年度に幼稚園3園を、平成28年度に中学校4校を統合し、適正規模の学習環境の整備を進めてきた。また、小学校においては、小学校再編整備(統合)方針及び実施計画に基づき、令和7年度に小学校4校を統合し、子供たちにとって望ましい教育環境の整備を進めていく。

保育所・こども園・小学校・中学校を連続した教育の充実、地域とともに歩む学校づくりなどについて検討するとともに、それらを支える教育施設・設備の一層の整備を進め、小鹿野町の未来へつなぐ教育環境を充実し、子供たちが夢と希望をもち、町民が誇りとする学校教育の実現を目指す。

(1) 幼児教育の充実

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、保育所・こども園がそれぞれの特長を生かしながら質の高い幼児教育を提供することが求められている。また、今日の教育課題のひとつである「小一プロブレム」に対応し、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、こども園と小学校との連携を深化する取組を推進する。

- おがのこども園との連携のもと、幼児期の教育と小学校教育への接続期プログラムの見直し充実
- 幼児と児童生徒の交流活動及び保育所・こども園職員と小学校職員との相互交流

(2) 学校の未来像

「子供は町の宝」である。「町の未来を担い、世界へ羽ばたく子供を育てる学校づくり」、「地域と共にある、地域に誇りとされる学校づくり」の実現を目指す。

令和7年度の小学校統合を見据え、小・中学校1校ずつの併設型小中一貫校を目指すとともに、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の一層の充実を図りながら、地域との結びつきを発展させ地域とともにある学校づくりを推進する。さらに、町内にある教育機関の頂点である県立小鹿野高等学校との連携を一層深化させながら、教育先進の町づくりを推進する。

- 小学校再編整備(統合)方針及び実施計画に基づく円滑な小学校統合

- 小・中学校が目標と手立てを共有し、義務教育9年間を連続させた学びの推進
(町民が誇りとする併設型小・中一貫校の実現)
- コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の充実
- 小鹿野高等学校との連携の深化

(3) 施設・設備の充実

学校の教育力の維持向上のためには、安全で快適な教育環境を整備する必要がある。未来を担う子供たちに、ICT環境を始め良好な教育効果が得られる教育環境を確保するため、各学校の教育施設・設備の整備を進める。

また、小学校統合後の学校生活を一層充実させ、子供たちが未来に希望がもてるようにするため、小鹿野小学校の施設・設備の重点的な整備などを段階的に進め、魅力的な教育環境を次世代に引き継ぐ。

- ICT環境の整備(タブレット端末更新、大型ディスプレイ設置等)
- 統合を踏まえた小学校の教育環境の整備
- 小学校統合後のICT機器等の有効活用
- 新しいニーズに対応した教育施設の再構築

【 資 料 編 】

I 用語の説明

1 ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福も含むもの。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。

2 超スマート社会(Society5.0)

①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く新たな社会を指し第5期科学技術基本計画で、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された。そこで実現される社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されて新たな価値が生まれ出され、人工知能(AI)やロボットなどの技術により、少子高齢化や地方の過疎、貧富の格差など様々な課題や困難が克服されるとされている。

II 教育ビジョンを踏まえた具体的な取組について（解説）

1 学力向上プロジェクト

「人間力」の基盤となる「確かな学力の育成」は、学校教育における最重要課題である。学力向上に向けた様々な取組を、行政が学校や家庭と方向性を共有しながら総合的に推進し、各学校の工夫や独自性を積極的に支援する。

【具体的な取組】

小鹿野ベースの授業 おがの自学ノート おがの家庭教育宣言

2 小鹿野ベースの授業

これまでの授業は「わかるから楽しい」ということに主眼が置かれ、わからせることが最大のねらいであった。「主体的・対話的で深い学び」では、「協働（人とのつながり）を通じた主体性の育成と学びの深化」が求められている。「わかるから楽しい」から「楽しいからわかる」へとロジックを転換し、協働を通じた主体性の育成と学びの継続・深化を目指して、具体的な視点・スタイルに沿った町内全校一斉の授業改善の取組として推進する。

3 おがの自学ノート

小学校卒業段階で自らの必要性や興味・関心に基づき、何を学習すべきかわかり主体的・計画的に家庭学習に取り組む態度や習慣を身に付けさせることを目指し町独自に作成したノートを全児童に配布する。各学校で活用の仕方を工夫し、児童にはできるだけ自由に利用させるとともに、保護者に趣旨を徹底し、学校と家庭が連携した長期的な取組として推進する。

4 ファミリー5ヶ条(おがの家庭教育宣言)

秩父地区PTA連合会小鹿野支部と連携して、子供たちの学力向上のベースとなる生活習慣・学習習慣の定着に向けて、家庭の教育力の向上を目指し、全校共通の取組目標を設定している。児童生徒だけでなく、保護者等の意識啓発に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった事業として推進する。

5 おがの子供の夢育成プロジェクト

「志ファイル～キャリアパスポート～」を活用するなどして、小・中学校9年間を見通した体系的・系統的な進路指導・キャリア教育を推進する。子供たちが自分の夢や志を発表する会を保護者や町民同席のもとに実施するなどして、自分が地域の一員であることを自覚させるとともに、「認め・褒め・伸ばす教育」、「自己肯定感を高める教育」を推進する中で、「人は自分のためだけでなく、人のため社会のために存在している。」という意識を育む。

【具体的な取組】

- 志ファイル～キャリアパスポート～ 二分の一人成人式 立志式
 卒業（式）に思う

6 ハートコンタクトプログラム

社会体験チャレンジや職場体験・見学などの活動を系統的に再構築し、職業や働くことの意義や厳しさを経験するとともに、地域の人たちとの心の触れ合いを深める取組を推進する。学校を支えてくれる人々や地域に対し、感謝の気持ちをもつとともに、自らの行動で社会貢献できるような取組として可能な範囲でのボランティア体験活動に取り組む。また、「志ファイル～キャリアパスポート～」の継続的な活用を通して、心の触れ合い体験が自らの夢や志につながる取組を推進する。

【具体的な取組】

- 中学生社会体験チャレンジ 小学生社会科見学 町や地域のたんけん

7 ほっとハートキャンペーン

子供たちの心がほっとしたり温かくなったりするような、仲間の言動の「良さ」に気付かせる取組を定期的に推進する。子供自身が、仲間の行動に目を向け、仲間の「良さ」を認め、評価するという活動を通して、相互の「良さ」を伸ばすという態度を育み、人の気持ちを大切する行動習慣に結びつけたい。

【具体的な取組】

- 人権月間 友達の良いところを探そう 思いやりの木を育てよう

8 おがのことだま百選

文学的にも表現的にも価値ある詩や散文、名文等に触れることで児童生徒の言語的な感覚を磨くとともに、暗唱し身に付けることで人生の指針とする。各学校が家庭と連携して進めるとともに、地域を巻き込んだ取組として発展させる。

9 小鹿野未来塾

子供たちの学力向上を目指した学校支援として、教育委員会が主体となって小中学校児童生徒、保護者、町内在住高校生、小鹿野高校生、一般町民を対象とした様々な学習機会を提供する。「小鹿野高校との連携」、「地域の教育力の活用」、「親子共学」をキーワードに事業内容を一層充実させる。

【具体的な取組】

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 中学生未来塾（国語、数学、英語） | <input type="checkbox"/> 漢検チャレンジスクール |
| <input type="checkbox"/> 英検チャレンジスクール | <input type="checkbox"/> 小学生科学不思議講座 |

10 英検・漢検取得率4割以上

グローバル社会への対応として、語学力（正しい日本語と英語力）の育成は子供たちの学習や体験を広げるベースになるものである。英検・漢検3級は、「中学校卒業程度」と設定されており、国では英検については、中学校卒業段階で3級以上の取得者を5割以上にすることを目指している。小学校段階からの意識付けにも留意し、小鹿野町の現状を踏まえて、中学校卒業までに3級以上の合格者4割を目指して取り組む。

11 社会に開かれた教育課程

子供たちが地域や社会との接点をもちながら地域の人とのつながりの中で学んでいけるよう教育課程を社会に開かれたものとするのが進められている。学校・家庭・地域が教育の目標や手立てについてねらいを共有し、互いに当事者意識をもって子供たちの育成に努め、教育の人的・物的資源、関係組織等を活用しながら、社会と協働する教育活動を積極的に展開する。

12 小鹿野ふるさと学習

総合的な学習の時間や教科の学習を通して、小中学校の系統性を踏まえながら歌舞伎などの伝統芸能の継承や小鹿野の歴史、現状などの学習を深め、正しい地域理解とともに、地域の良さに気づき、愛着と誇りを感じ得る体験学習を推進する。

【具体的な取組】

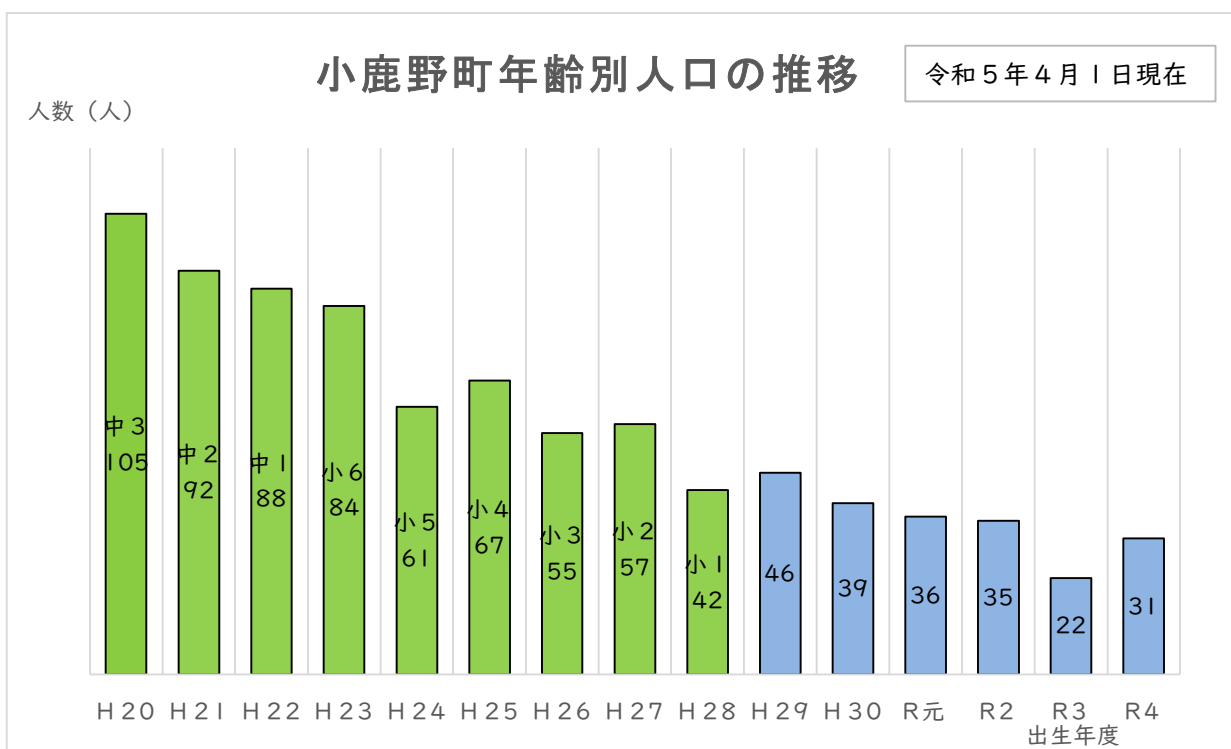
- 小鹿野中学校の総合的な学習の時間
- 1年「小鹿野町について考えよう」、「職場見学」
 - 2年「郷土学習」（①歌舞伎学習班 ②森林学習班 ③自然・文化学習班
④文学研究班）

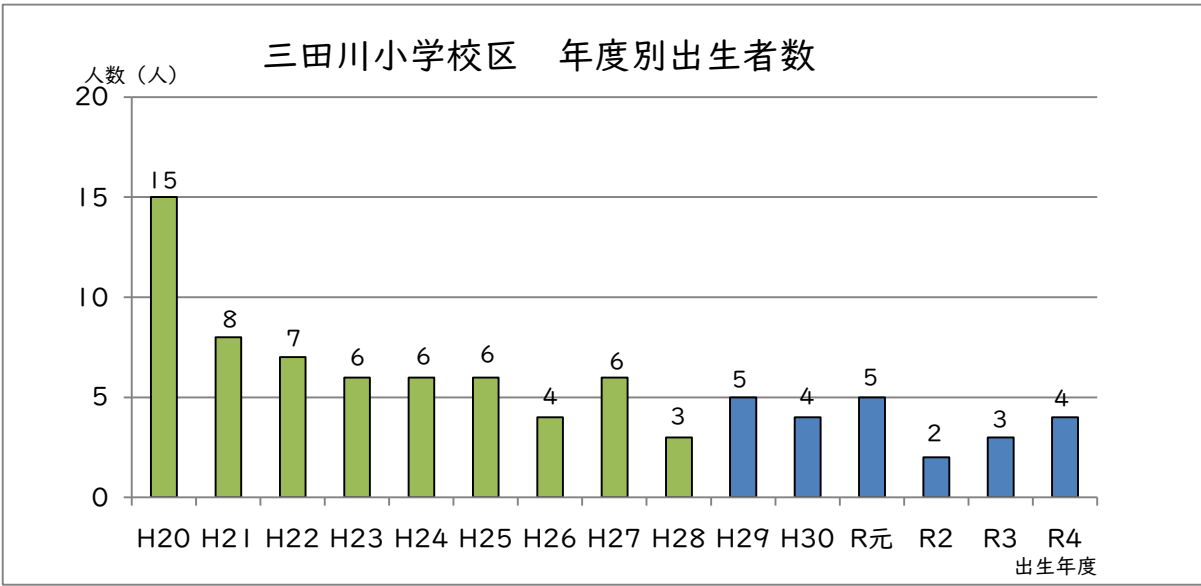
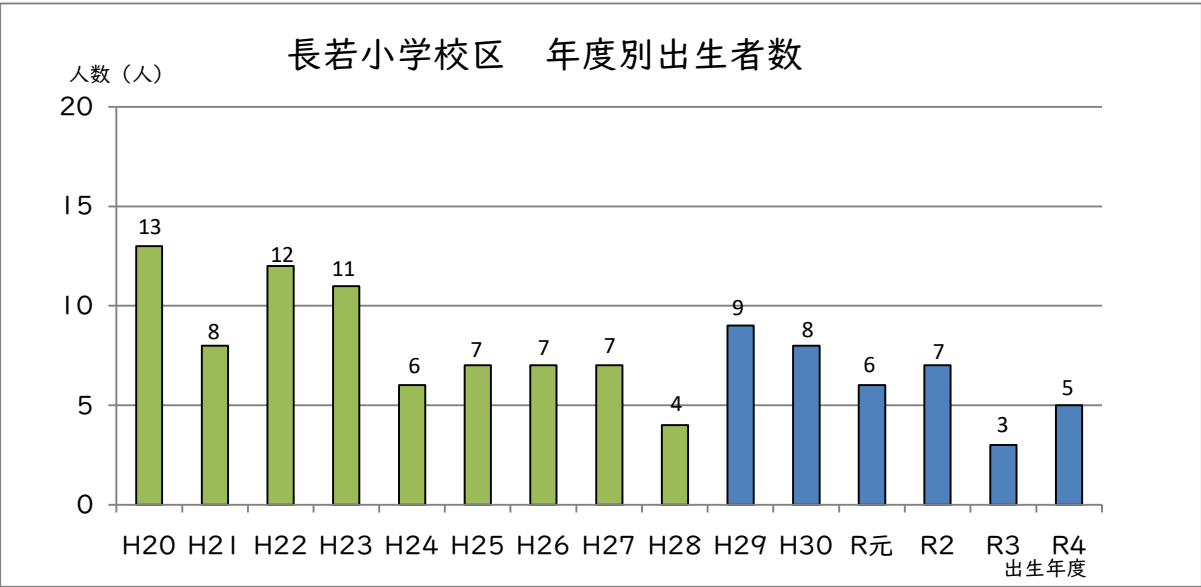
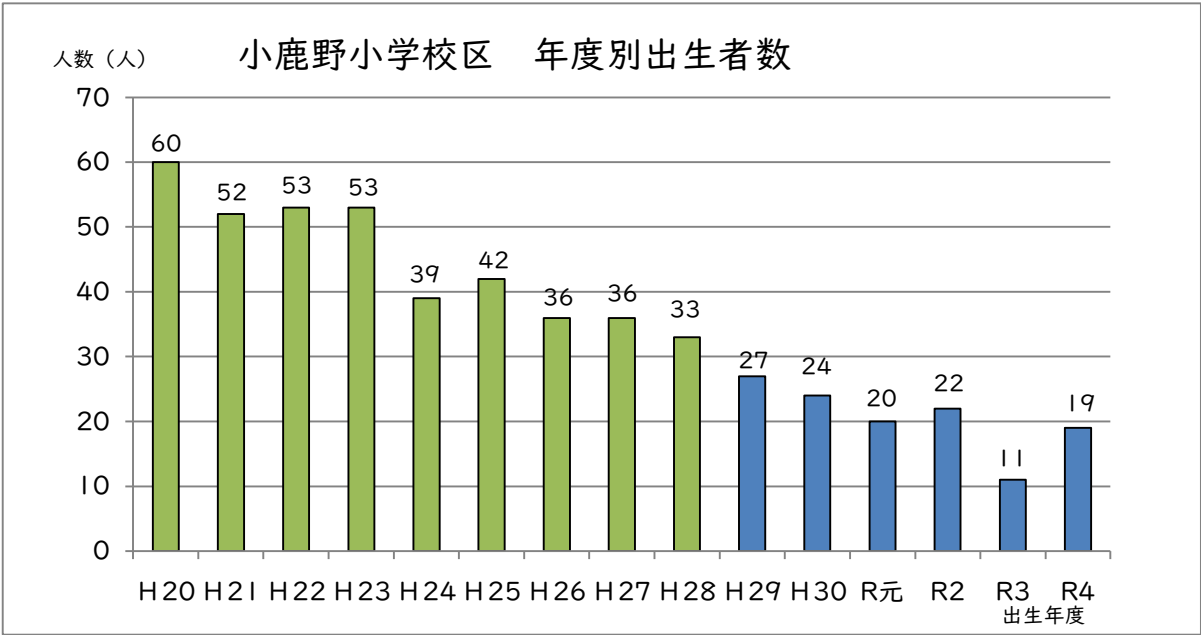
Ⅲ 教育に関する各種データ

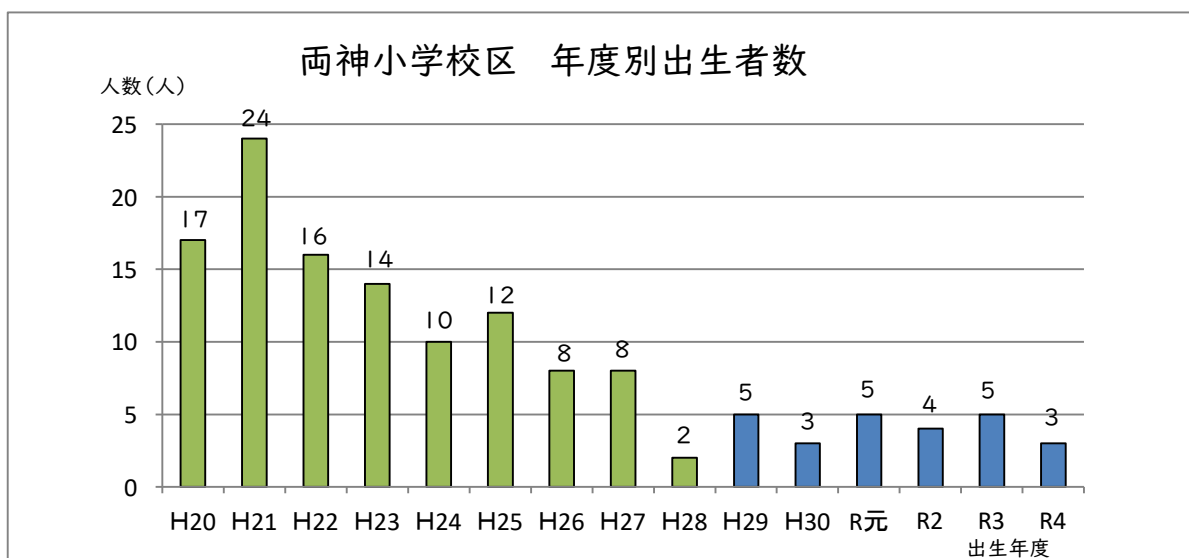
Ⅰ 小鹿野町の子ども数の変化

【小鹿野町小学校区年齢別人口】 令和5年4月1日現在 住民生活課年齢別人口資料による

出生年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	
入学年度	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
年齢	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
学年	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	-	-	-	-	-	-	
小鹿野小	下小鹿野	18	24	22	18	15	19	15	14	12	14	8	5	8	4	5
	小鹿野	38	27	30	34	21	22	20	20	20	13	16	15	14	6	13
	伊豆沢	1	1	0	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0
	日尾	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	藤倉	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	小計	60	52	53	53	39	42	36	36	33	27	24	20	22	11	19
長若小	長留	6	4	9	7	3	3	6	5	4	6	4	5	4	2	3
	般若	7	4	3	4	3	4	1	2	0	3	4	1	3	1	2
	小計	13	8	12	11	6	7	7	7	4	9	8	6	7	3	5
三田川小	飯田	13	7	4	5	4	3	3	5	3	1	2	3	1	2	3
	三山	2	1	2	1	1	3	1	1	0	3	2	2	1	0	1
	河原沢	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	小計	15	8	7	6	6	6	4	6	3	5	4	5	2	3	4
両神小	両神薄	12	16	12	9	6	10	6	8	1	2	3	4	4	2	1
	両神小森	5	8	4	5	4	2	2	0	1	3	0	1	0	3	2
	小計	17	24	16	14	10	12	8	8	2	5	3	5	4	5	3
総計	105	92	88	84	61	67	55	57	42	46	39	36	35	22	31	







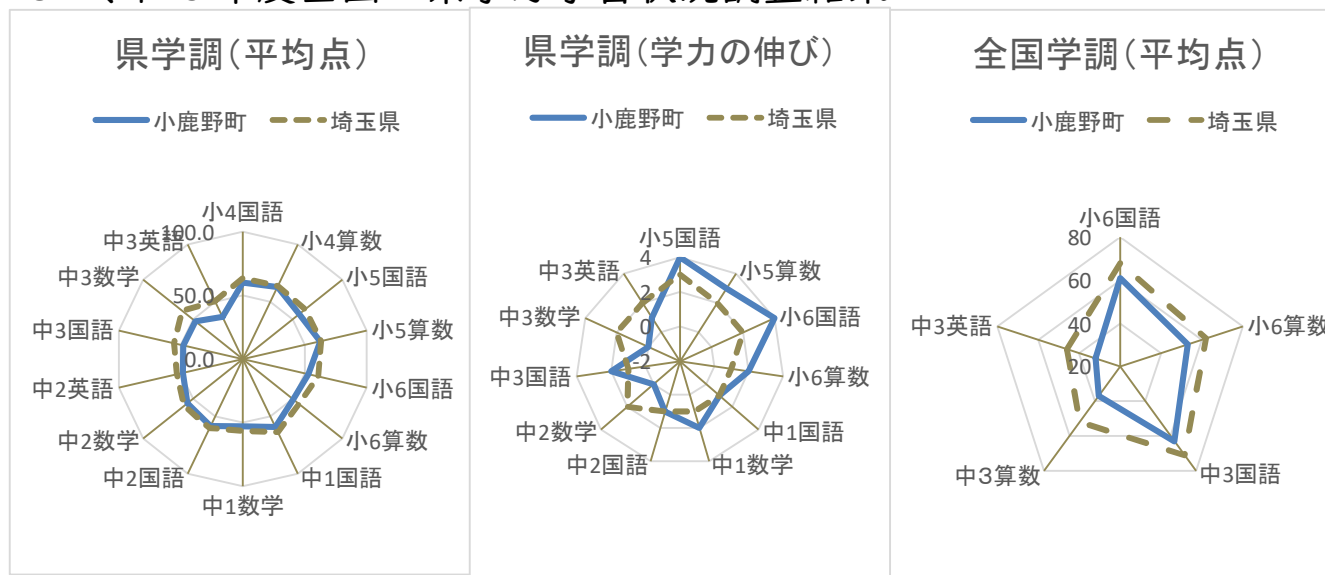
2 児童・生徒数と学級数の推移

令和5年4月1日現在

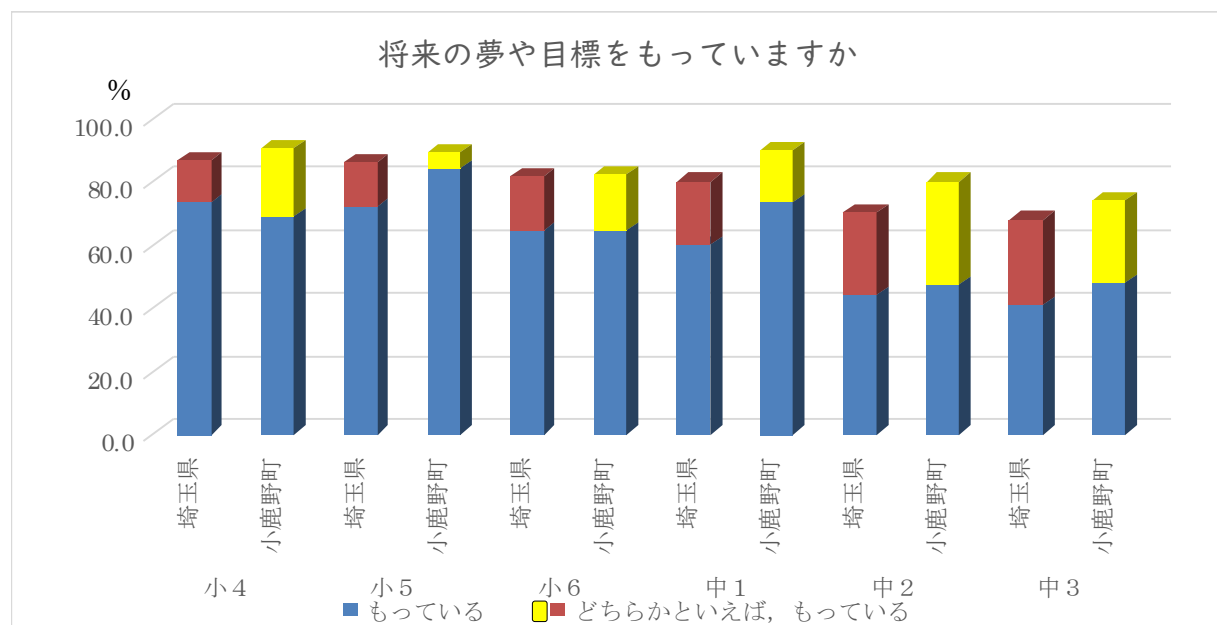
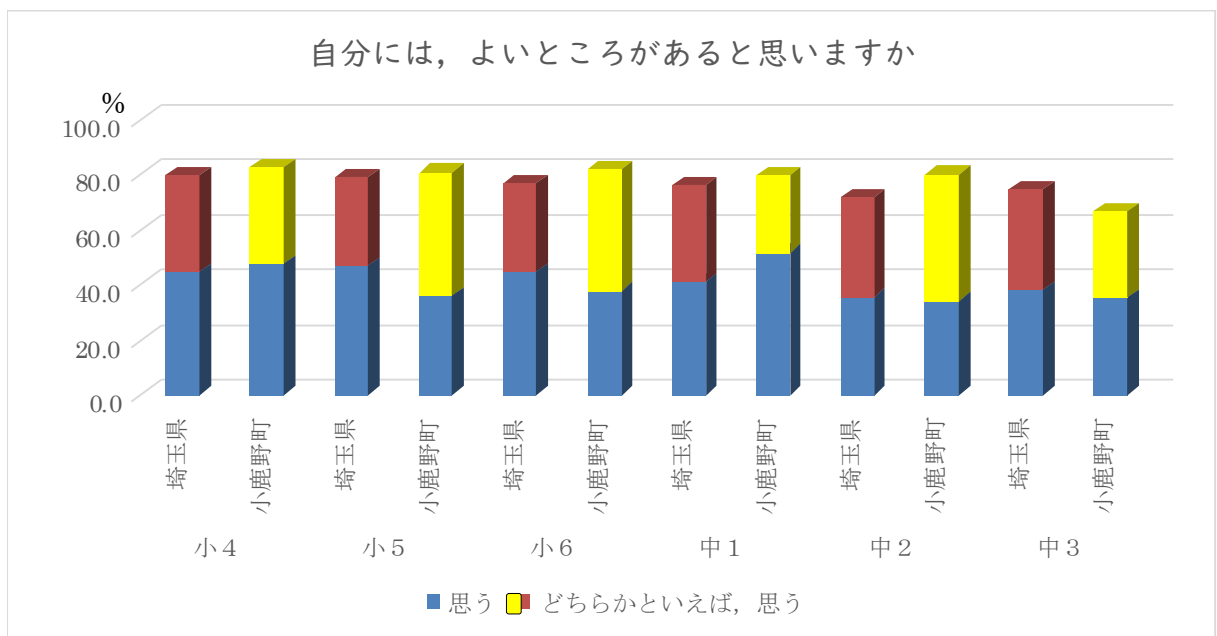
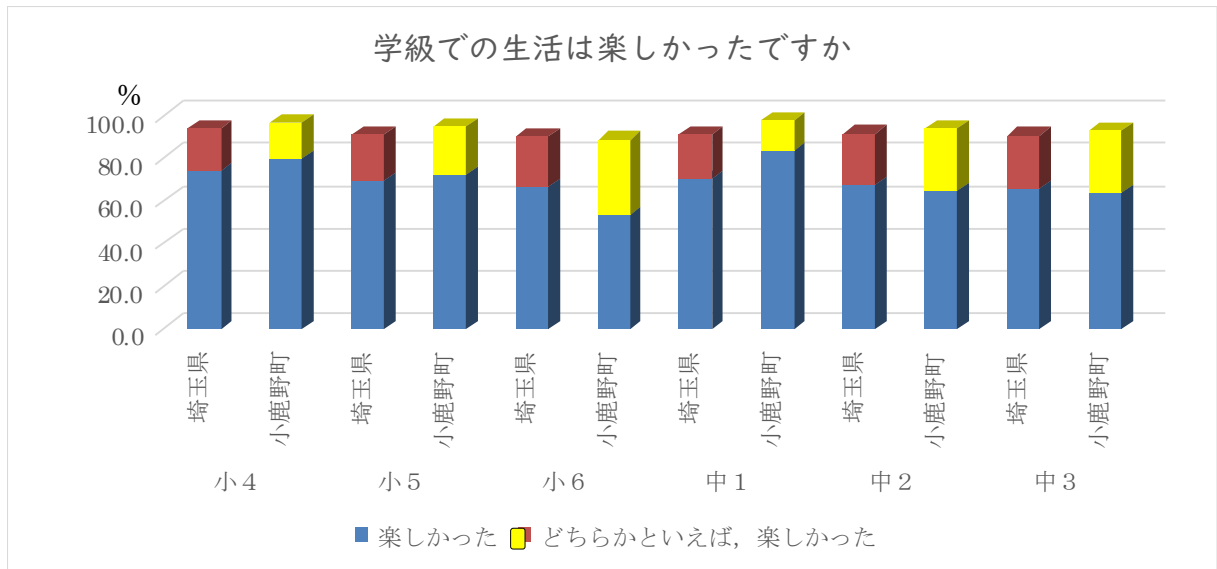
	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
1年生	46	39	36	35	22	31
2年生	42	46	39	36	35	22
3年生	57	42	46	39	36	35
4年生	55	57	42	46	39	36
5年生	67	55	57	42	46	39
6年生	61	67	55	57	42	46
児童数の合計	328	306	275	255	220	209
学級数	12	12	12	11	10	9
中学1年生	84	61	67	55	57	42
中学2年生	88	84	61	67	55	57
中学3年生	92	88	84	61	67	55
生徒数の合計	264	233	212	183	179	154
学級数	9	8	7	6	6	6

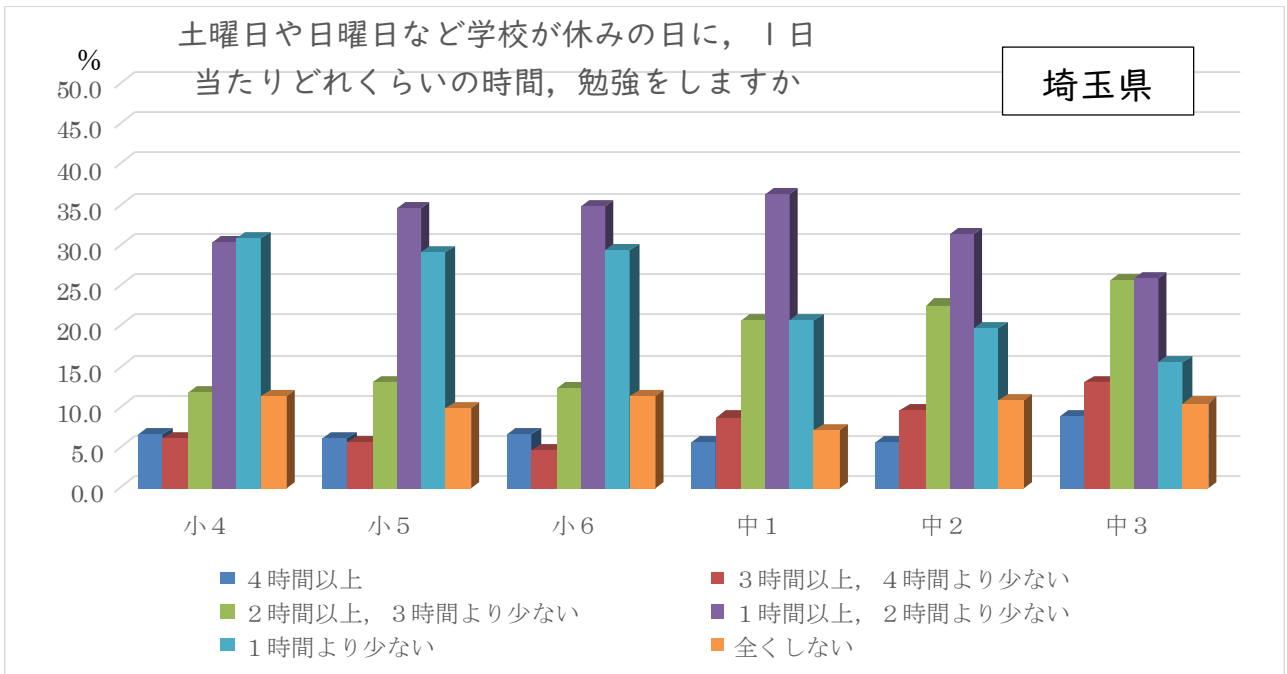
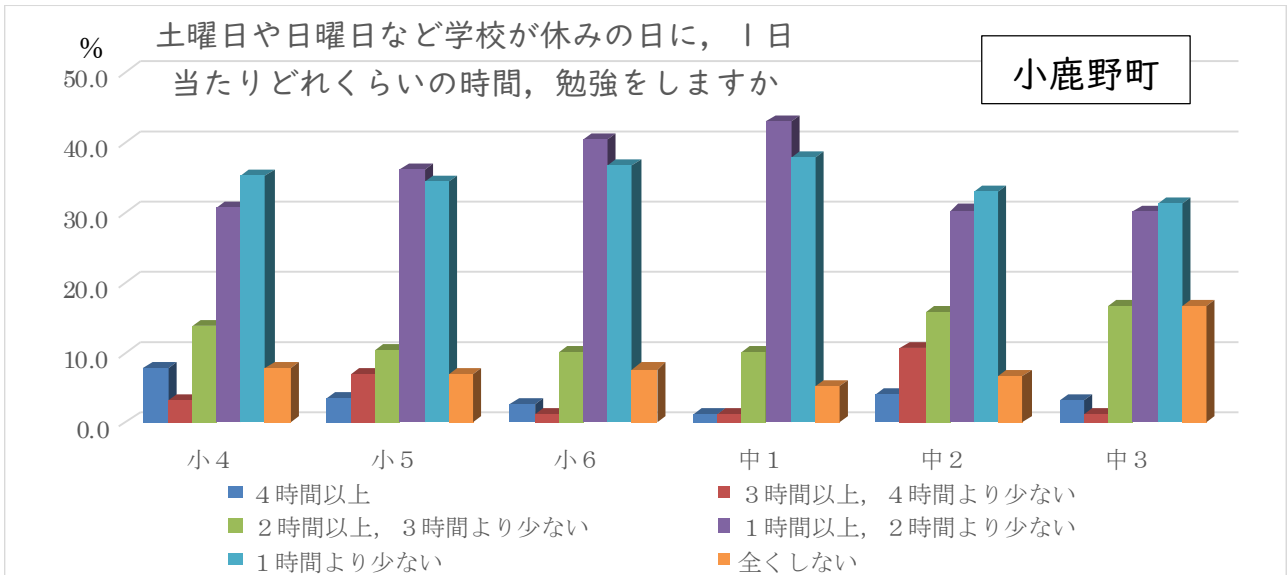
※ 児童数は4校の総計、学級数は1校として考えた場合

3 令和5年度全国・県学力学習状況調査結果

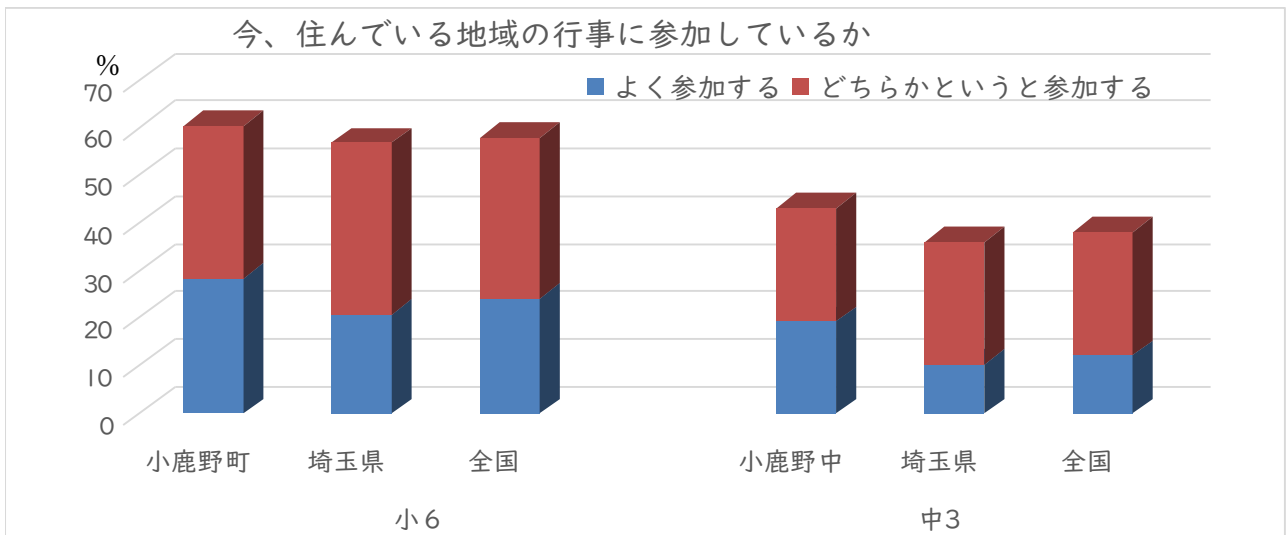


4 質問紙(埼玉県学力・学習状況調査)の結果





5 質問紙(全国学力・学習状況調査)の結果



6 新体カテストの結果

(男子)

項目	年度	学 年								
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
握 力	元	-	-	○	-	○	-	○	○	○
	3	-	-	-	○	○	○	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	○	○	○	-
上体起こし	元	○	○	-	○	○	-	○	×	-
	3	-	-	-	○	-	○	○	○	-
	4	-	-	○	-	-	○	○	○	-
長座体前屈	元	×	○	-	-	○	-	-	-	-
	3	-	-	-	○	○	○	-	-	-
	4	-	-	○	-	○	○	-	○	-
反復横とび	元	-	-	○	○	○	-	-	-	-
	3	-	-	-	○	-	○	○	-	-
	4	○	○	○	-	-	○	○	-	-
持久走	元							-	-	-
	3							-	-	-
	4							-	-	×
20mシャトルラン	元	○	○	○	○	○	-			
	3	○	○	○	○	○	-			
	4	○	○	○	○	-	-			
50m走	元	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	4	-	-	-	-	×	-	-	-	×
立ち幅とび	元	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	○	○	○	○	-	-
	4	-	-	-	-	-	-	○	-	-
ボール投げ	元	○	○	○	○	○	-	-	-	-
	3	○	○	-	○	○	○	-	×	-
	4	○	○	-	○	○	○	-	-	×

(女子)

項目	年度	学 年								
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
握 力	元	-	-	○	○	○	-	○	○	○
	3	○	-	○	-	○	-	-	-	○
	4	○	-	-	○	-	○	○	-	-
上体起こし	元	○	○	○	-	○	-	○	-	○
	3	○	○	○	-	○	-	○	○	○
	4	-	○	○	○	-	○	○	○	○
長座体前屈	元	×	○	-	○	-	-	○	×	-
	3	-	○	○	○	○	○	-	×	○
	4	-	×	○	-	○	-	-	-	×
反復横とび	元	○	-	○	-	○	-	-	-	-
	3	○	-	○	-	○	○	○	○	-
	4	○	-	○	-	-	○	-	○	○
持久走	元							-	-	-
	3							-	-	-
	4							×	-	-
20mシャトルラン	元	○	○	○	○	-	-			
	3	-	○	○	○	○	-			
	4	-	○	○	○	-	○			
50m走	元	-	-	-	-	-	-	×	-	-
	3	-	-	-	-	○	-	○	-	-
	4	-	-	-	-	×	-	-	-	-
立ち幅とび	元	○	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	○	○	○	○	○	-	○	-	-
	4	-	-	○	○	-	○	○	-	-
ボール投げ	元	○	○	○	○	○	○	-	○	-
	3	○	○	○	○	○	○	○	-	-
	4	-	○	○	○	○	○	○	○	-

○：県平均値以上のもの ×：県平均値を下回っているもの -：県平均値と有意差がないもの

第3次小鹿野町学校教育ビジョン

令和6年4月

発行 小鹿野町教育委員会学校教育課

住所 小鹿野町小鹿野89番地

電話 0494-75-5063